

最強麻雀プロ、咲—Saki—の世界に来たので無名校を日本一にしてみた。

ユツキ～ゆきゆき

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

日本最強プロ麻雀士、望月美波。彼女は不慮の事故で亡くなってしまふ。しかしあつちの世界に未練がない美波は謎の自称かわいい女神により咲―S a k i―の世界に転生することになる、これは望月美波が自分を超える存在を教育するために奮闘するお話です。（カオス要素あり）

目次

麻雀プロ死す

終局

麻雀プロ出会う

始まり

親友

隠れた猛者

1

7

13

19

麻雀プロ死す

終局

「ツモ、2000、4000」

『決まった。第40回鳳凰戦を制したのは望月 美波選手。合計収支はなんと+318.7。これで日本プロ麻雀連盟が主催する4大タイトル・グランプリMAXに加え、女流タイトル戦の計8個のタイトルを制し、見事八冠王に輝きました。』

『前代未聞ですよこれは…』

『それでは、対局者一人一人にインタビューしていきたいと思います。』

・
・
・

今帰りのタクシーの中だが自己紹介をしよう

私の名前は望月 美波（もちづき みなみ）

日本プロ麻雀連盟所属の女流プロ麻雀士だ。麻雀は小さい頃から大好きで友達そっちのけで麻雀をしてたらしいしか麻雀馬鹿と友達にあだ名を付けられたのはどうでもいいか。兎に角私は麻雀が大好きな27歳独身だけ覚えてたらしい。ルックスはまあまあいいと思うんだけどなあ。どこがいけなかったのだろうか……………。

あ、こうやってひとりの世界に入ってるからか。なるほど解決。

話が逸れたけど……………。え？逸らしたのはお前だろって？いや、普通こんな美人がいたら世の中の男共は……………

（閑話休題）

また話しが逸れたけど、私にとって麻雀とは生きるための活力であ

り、生活必需品なのだ。これがなかった私は生きていけないし生きてくれないぐらいこよなく麻雀を愛している。だからだろうか。こうやって日本の頂点に立ってみるとどうだろうやっば見える世界が違って……んな事はなかったわ。

「お客さん。まさか望月美波さんかい？」

「あ、はいそうです」（営業スマイル）

「まじか、じゃあ後でサインとかくれないか。うちの息子があんたのファンなのさ。」

「はい、大丈夫ですよ」

このおっちゃんの息子なかなか見る目あるなあ……

しょうがない、私のサイン1つで喜んでくれる人がいるならなんぼでも書いてあげよう。

「今日の試合ラジオで聞いてたよ。やっばてっぺん取っちゃうとつまんなく感じちやうとかそんなのはないの？」

「私は別にそういうのは………」

麻雀 つまらな い

麻雀 飽 き た

やめろ。そんなことを思っただけだから気にはいけない。私は麻雀を生涯にわたって愛すると誓ったんだ。だってそれしか方法がなかったから。なのにそんなことを思ってしまったら私はどうやって生きていけばいい。くそ、頭がクラクラする。

「お客さん大丈夫か！」

「ちよつと頭痛がするだけだから気にせずに……」

おつちゃん迷惑をかけてしまった。申し訳ない。そんな心配そうな顔をしてこつち見ないで前を見て運転しろ。そうしないとほら前から来る車を避けることだって出来なくなるぞ。

うん？前からく……

続いでニューズです。昨夜9時過ぎ国道を走る軽自動車が逆走しタクシーと衝突する事故が起きました。

この事故によりタクシーに乗っていた長山 俊さん43歳と望月美波さん27歳の死亡を確認しました。これにより軽自動車を運転していた田中 陽25歳を危険運転過死傷罪の容疑で現行犯逮捕しました。調べに対し田中容疑者は”酒を飲んだ勢いで運転してしまっただ”と容疑を認めているとのこととです。

・
・
・

ここはどこだろうか。辺り一面は真っ暗で1メートル先も見えない。最後の記憶は車とぶつかった時だから順当に考えていくと私は死んだことになる。いや、私あつさり死んだな。漫画だったら見開き

1ページで収まるぐらいの短さだぞ。やっぱ死んだらこういうベタな空間に行くんだなあなるほどなるほど……

え？まさかのずっとこのまま？え？嘘でしょ冗談でしょ？誰かいなとか神とか女神とか女神とかかわいい天使とかー！！！！

<呼んだ？>

お、おお。結構軽い感じの神がでてきたのはいいけど辺り一面真っ暗だから何も見えん。

<主があつしのことをかわいい女神と呼んだのが聞こえたのお。思わず出てきてしもうた♪>

うん。かなり都合のいい耳をしているようだがそれは敢えて言わないでおこう。その方が絶対にいいはずだ。うん、多分絶対そうに違い無いかもしれない。

<あつしは今とてもとてーも気分がいい。主の願いをできる範囲で1つ叶えてやろう>

え？マジなんでも1つ願いを叶えてくれるって？え？お前も大概都合のいい耳をしているだろうって？うんうるさい黙れ。

それにしても困ったなあ。願いを叶えてくれるって言っても私麻雀以外何も出来ないしこれといって欲しいものとかないからなあ。どうしたもんかねえ……

<主は麻雀が好きなようだが、どうだもう一度あつちに戻って麻雀してみたか？>

うむ。悪くは無い。私もいつちばん最初に出てきたのがまさにそれだったし何より麻雀しかない私にはこれしか無かったが、でも同時

に思った。

——あつちに戻つてもまた楽しく麻雀を打てるのか

と。私自身薄々勘づいていた。日々成長していくにつれて人間ではなくなっていく感覚とその周囲の目。あいつは特別だからだとかあいつは異常だからという言葉で片付けて、諦めずに戦う者がいなくなつてしまったあつちの世界で私はこれからも麻雀を好きでいられるのか。麻雀は4人が打っていて楽しいと思えて始めて本当の麻雀なのだ。人間ではなくなつてしまった私にそのような環境はもう二度と手に入らないだろう。

くうくん。答えがなかなか出てこないのお。じゃあ主よ。この世界に行つてみてはどうだ?>

「何処ですか?」

<咲—S a k i—つていう世界だな。丁度主にピッタリの世界じゃ。麻雀が知的スポーツとして人気な世界なんだ!此処であつたら主が見つけている強敵とやらに会えるかもしれないぞ。どうじゃ?行きたくなつたか?>

え?何それ超行きたい。今すぐにでもいきたい。いや行かせてください。はいはい!此処!此処!ここにします。

<その顔は賛成と受けとるぞ。でも、ただ麻雀を打つていても楽しくないから主自身あつちで麻雀の教育をしてみはどうだ?>

麻雀の教育かあ。確かに面白そうではある。私が一から手ほどきした子がどんだけビツクになるのか楽しみでもあるし、ワンチャン私を超える存在も出てくるからかもしれない。そう思うとほらなんかどんだんやる気が起きてくるえへへえ。おつといけないヨダレが
.....

<じゃあ主よ健闘を祈つとるぞ>

麻雀プロ出会う 始まり

どうも皆さんこんにちは。前世でも今世でも名前が同じ、望月美波だよ。なんで名前が同じになったんだろう？フシギダナア（すつとぼけ）ま、そんなことはどうでもいい！あの日私が咲—S a k i—の世界に来てから24年が経って、計51年間独身！しかも彼氏のひとりもできたことは無い。なんで私には彼氏が出来ないんだコノヤロウって話じゃねえわ。

私！此処北海道最北端にある！“萌間高校”にやってきました！なんでここなの？って質問答えてしんぜよ。知人がここの教師として働いていて、ここの麻雀部のコーチをやってくれとオファーが来たからだ。まっ私も北海道出身のものもあるんだけど。とりあえず今日から私も萌間高校の一員なる訳で今日は教師陣と初対面なわけだけど、……どこだろうここ。さつき迄暇だったから宗谷岬でぶらぶらしてたら迷子になった。やっべえ。もし遅刻したら校長先生に怒られるし、綾子(りょうこ)に至っては怒られるってか多分殺される。一応言つとくけど綾子っては今回私にコーチのオファーをした私の数少ない友達。みんなは茶髪シヨートの綺麗なお姉さんだと覚えてな！！

車で目的地の萌間高校までカーナビを使ってるが辺り一面森か田んぼ。永遠に同じとこループしてんじやないのかってほどなんにもない。やっぱ都会での暮らしに慣れすぎたのかこういうとこに来ると逆に迷子になりやすいがやっぱ楽しいし心が落ち着く

それから30分運転してようやく着きました。萌間高校！人員不足なのだろうか車が見る限り6台しかない。校舎も結構古い感じで

かなりの歴史がありそうだ。うん、オブラートに包まず正直に言おう
かなりボロっつい。なんてこと考えていると教師用玄関から綾子が
近づいてくる。

「あんたギリギリね道に迷った?」

「迷ったくなき」

「ほら、時間ないんだから泣いてないで挨拶しに行くわよ」

「ちよ、手く引っ張るな」

クソっ!高校の時は大人しくていい子だったのにいつからこんな
に大胆な子になったのかしら。まさか彼氏か!!彼氏なのか!!ゆ、許さ
んぞ綾子く。貴様を末代まで呪ってやるう。いて、久しぶりに綾子
にどつかれた。

「あんた変なこと考えてたでしょ」

「そ、そんなことナイデスヨ」

「もつかいどついていい?」

「すみません。嘘をついてしまいました。許してください」(土下座)
「分かればいいのよ分かれば。さっさと行くわよ」

チツクショー、どついた上にこんな土の上で土下座させるとか鬼
畜、悪魔、綾子!!私はそんな子に育てた記憶はないぞお!!てかこんな
とこ、他の人に見られたらたまったもんじゃない……………わ……………

「…」ジ―

クソやられた。でつかい木の裏に黒髪ロングの美少女 かつこ正
確的には前髪もかなり伸びてるからよく分からないかつこことじに
見られてしまったく。えっ?焦ってるように見えてかなり余裕があ
るだろうって?うん、うるさい黙れ。

兎に角、口止めをしないとこんな姿の私を口外されては私の一生の

恥になるのは明確。ありとあらゆる手段を使ってもあの子の口を封じなければならぬ。そう、どんな手段を使ってもイツヒツヒツヒツ

「ねえ？君」ガシツ

「ひや、ひやい／＼／＼」

「なんか欲しいものある？麻雀牌？全自動卓？もしくは土地の権利書？何でもひとつあげるから今の見なかったことにしてくれないかな？それでもしないと私が死んじゃうから…」なき

「じゃ、じゃあ…」

なりやら女の子がバツクの中をガソゴソをし始めた。ま、まさか！欲しいのはおめえの命なんだよ！！って言って私刺されるの？やべえ終わった……お父さんお母さん、そして我が妹よ。先立つ不幸をお許しください……。

「こ、これにサインしてください!!」

なーんだそんなことが早く言ってくればいいのに。このこの。みんなは放心状態だった私を見なかったことにしてくるかな？してくるよね？いやしてくるはずだ!!

「うん？あ、これ私が書いた本じゃん。なにになにもかして買ってくれたの？嬉しい!!ありがとう」なでなで

「はわわわわ／＼／＼」

よし、この本にサインだね。まさか私の出した麻雀解説本が売れるとは夢にも思ってたなあ。出した当時友達（綾子とは別）から

” あなたの書いてることは、1部の特殊な人にしか伝わらないよ…

” って言われたから絶対酷評だと思ってたけど今でも大切にカバン

の中に入れてくれるとか感動もんよ？

「はい、これサインね」

「わああああ。あ、ありがとうございます。た、大切にします！」キラキラ

「ありがとうございます。君名前は？」

「わ、私は、我妻 葉月（わがつま はづき）です。」

「私は望月美波……っってもう知ってるか」

『おい、美波。なにやってんの？10秒以内に戻ってこないともっかいどついてくよ？はい、10〜』

や、や、やばい。綾子の死のカウントダウンが始まってしまった。次やられたら今度こそお陀仏する羽目になる。は、早く急がないと!!

「ご、ごめん。私急がないとだから」

「きよ、今日はありがとうございます!!望月プロ!!」

「こちらこそ。今日は楽しかったからまた今度会いましょう？」

「は、は、はい!!」

「じゃあね!葉月ちゃん」

・
・
・

よし、ギリギリセーフね。よし、何とか一命は取り留めた。3秒ロスしたけど誤差よ誤差。世の中には3秒ルールつてのがあるから大丈夫大丈夫!

「あんた何やってたの?」

「ちよつと女の子と喋った」

「うわ。ナンパ?ないわあ」

「なんで女の私が女の子ナンパするのよ。普通男でしょ?」

「男にモテなさすぎて遂に女に手を出したのかと」

ほう、言うようになったね美波……。あんたは可愛いからあっち(男)から寄ってくるもんねえ。よし、ならば私の名誉をかけて戦争だからああああああ

「にしても、良かったの?」

「うん?何が?」

「プロよプロ。突然プロやめるって。ネットニュース3日間その話題で持ち切りだったし」

「ああ、いいのいいの。私の最終目標はあくまで私の生徒を日本一にする。そのためにここに来たんだから。別に麻雀界の頂点に君臨したいとは思ってないし望んでないよ」

「あんたがそういうんだったら私も別にいいけどさ、同年代の小鍛治プロだったり、後輩のプロ。三尋木プロに関してはあんたのことめっちゃ慕ってるらしいじゃん」

「慕ってくれてるのは知らないけど確かにその点に関しては唯一の心残りかも……」

今まで説明してなかったけど私はついこの間まで麻雀プロとして活躍してました。女王として。同年代に小鍛治 健夜(こかじ すこや) 通称すこやんがいたり、同じ横浜ロードスターズのチームメンバーの三尋木 咏(みひろぎ うた)ちゃんがいたりする。もちろん他にも同年代のプロや可愛い後輩がいる訳でそんな彼女達を捨ててここに来た。心残りが無い訳が無い。それでも……私は………

「無駄話もここまで。美波着いたよ。ここが校長室。」

遂に私の願い叶う。前世も合わせて51年間(正確には41年間)ただ麻雀打ってきた人生だったけど今こうして新しいことに挑戦す

るこのワクワクは何にも変え難い。しかし今は無礼がないように気持ちを持ちを切り替えていこう。この扉を叩けば開始の合図だ

「どうぞ」

「失礼します。皆さんはじめまして。横浜から来ました、元日本麻雀連盟所属の望月美波です。これからここ萌間高校麻雀部のコーチとして働かせていただきます。よろしくお願いします。」

「お初にお目にかかります望月美波プロ。私は萌間高校の校長をやらせて頂いております。石田 秀明（いしだ ひであき）です。教師陣一同心よりご歓迎申し上げます。」

私の最終目標に向かってようやく前進したよ女神。私の第2の人生はここからスタートだ。

親友

「綾子、ここが？」

「そう、ここが萌間高校麻雀部の部室になるわ」

うお、すごい。ぼつろぼろの木の板に”麻雀部”って書かれてる!!
初めて生で見た!! やっぱ歴史を感じるなあ(?)

「この後私仕事があるから、まあ、その、なんだ……頑張れ！」
「うん？ちよつと待つて今なんて言った？」

綾子のやつ私が言い終わる前にどっか行きやがったちくしょうめ。
でもまあ、ようやくスタート地点に立てたわけだからさすがに気分が
高揚しますよこれわあ。まあ、さっきのはただの戯言だということ
で早速お邪魔しまーす。

フウ、深呼吸……よし、もうツツコンでもいいよね？いいよね？
じゃあ、ツツコミます。

先生方との挨拶も終わって念願の麻雀部にレッツラゴーって思っ
てたけど、本当にこの麻雀部活動やってのこれ？部室埃まみれだし
デジタル打ち用の参考書は散らばってるし雀卓に至っては壊れてる
じゃん。活動してるとは到底思えないんだけど……。一応1雀士
として言わせていただくと整理整頓清掃、壊れたものは修理するか廃
棄する！これね。麻雀界の常識だからみんな覚えて帰ってください。
知らんけど。まあ、私が直しておいてあげますよ。え？お前そんなこ
とできるようには見えないって？チツチツチツ。皆さん、前世と併せ
て何回修理したと思ってるんですか笑 2回も修理したんですよ2
回も。しかも完璧に笑笑 驚いてるかもしれないませんがこれでも私一
応修理できるんですよ笑 じっくりその目に焼き付けて帰ってく
ださい

終わった……どうやんのこれ、カラフルな線が沢山あるだけでなんも分からないし、しまいにはどこが壊れてるのかも分からない。誰か助けてください。え？なんで修理できてないんだよ！つて？正直に言います超見栄はりました。1回動画みたら感覚でいけるいける大丈夫大丈夫つて思ってたけど現実と同じ上手くいきませんでした。くそお上手くいくと思ってたのに……こうなったらやけくそだすこやんに連絡をしよう！すこやん”何か困った時はいつでも相談してね”つて言ったからすこやんならきつときつと解決してくれはずだ！すこやんああ見えて私よりできること多いからなあ器用だし……。というところで早速電話しましょう。メッセージだと時間かかるしね！ええとすこやん……すこやん

……あ！あつた！

p r r r r r

「あ、もしもすこやん久しぶり！元気した？」

『元気してた？じゃないよもう。最近連絡来なかったから心配してたんだから』

「ごめんごめん。許して？で、早速本題んだけどさ！彼氏出来た？」

『そんなくだらないこと聞かためだけに連絡したの!?!しかも私後10分したら対局室に行かないとなんだけど!!』

「いいじゃんいいじゃん。久しぶりに私の親友であるすこやんとうちやっとお話するんだからちよつとぐらい付き合ってくれてもいいじゃん」

『良くないよ!!』

「これだからアラフォーは……」

『アラサーだよ!!てかまだ24歳だし、あなたと同じ年齢なんですけど?!』

「ハッハッハ、やっぱりすこやんは面白いし可愛いなあ。うんうん、電話入れて正解だったよ！」

『私はもうこの一瞬で疲れたよお』

「これから対局なのに疲れてどうすんのさ。まっ、私が疲れさせたんだけどね」

『全くだよ……』

「プロは忙しいそうだねえ。私は辞めたから何も無いしほぼ自由の身だよ」

『美波ちゃんは…プロに戻る気は無いの?』

「すこやん…」

『みんな待ってるんだよ。同じチームの咏ちゃんに、エミネンシア神戸の理沙(りさ)ちゃん、それにはやりちゃんとか靖子(やすこ)ちゃんとか一美(かずみ)ちゃん。色々な人が美波ちゃんのプロへの復帰を望んでいるんだよ。もちろん私だって…だからさ、もう一度私たちと麻雀しようよ』

「すこやん…私もう決めたから。この決意はもう誰にも止められないよ。私もかすみと同じ夢を持つてるから。あと、今戻ったらみんななんて言われるか分からないからね」

『美波ちゃん…うん、やっぱ美波ちゃんらしいね。美波ちゃんのそういう所大好きだよ』

「え?告白ですかあ?すこやん」ニヤニヤ

『そ、そ、そういう意味じゃないから!』

「アレアレ?結構焦ってますけど大丈夫ですかすこやん」ニヤニヤ

「~~~~っ／／／美波ちゃんのバカ!」

切られてしまった。ちくせう。やっぱすこやんは面白いなあ。いちいち動揺するところがたまらなく好きなんだよなあ。ふう、ひっさびさにすこやんと話せて私も満足満足さて、これから何しようかなあつと……あ、やべ。完全に雀卓のこと忘れてた。

※この後近くにあった業者さんに完璧に直してもらいました。めちゃくちゃ怒られました。

さて、あと入学式までの5日間、時間を余裕で余してしまった。部室もあらかた綺麗に片付いたし、今後必要になる教材も買っておいた。もちろんインターネット関係を整えるために校長の許可の下工事も行っている。もちろん自費でやりました。これでもう私がやるだけやった気がする。

まあ、かなり疲れたし休憩がてら久しぶりに近くにあったフリーで打つとしますかね。最近ここ1、2週間はもっぱら取材やら引っ越しやら準備やらでまともに牌すら触ってない。正直かなりマズイ。3、4日だったら何とかなるんだけど2週間は本当にやばい。みんなも経験あるでしょ？アクションゲームとかシューティングゲームとかだったらよくわかると思うんだけど、何日かやってないだけでかなりプレイが雑になるでしょ？それと同じでまともに牌に触ってないとケアレスミスが多く発生するし、感も鈍くなる。運7割実力3割と言われる麻雀だが、だからといって3割の方を蔑ろにしていい理由にはならない。実力が伴わなければ運も実力もついてこないし、結果最悪”スランプ”に陥る可能性だったある。だからこうしてフリーで打ってるが……………

「ツモ、タンのみ1000点」

「三四五六七八⑥⑦⑦⑦ ツモ⑧」

〔横456〕

「かあ、やっぱりプロ相手だときついなあ」

「1回しかあげれなかった…………」

「…………」チーン

1位 59400 (美波)

2位 18900 (客A)

3位 16300 (客C)

4位 5400 (客B)

結果私の一人勝ち。うくん……。やっぱ素人だからかなあ、不完全燃焼だ。相手のしたいことが全て手に取るようにわかっちゃうからズルしてる感じで申し訳ない。やっぱり時間もあるし今からでも遅くないから妹の家に行つて私の調節付き合ってもらおうかあ。一応プロだし。

「あのお、望月美波さん…ですよね？」

「うゆ？確かに私は望月美波だけど…君は？見る限りかなり歳低そうだね」

「あたし、桜羽 七海（さくららは ななみ）って言います。15歳です。」

「七海ちゃんだね。よろしくー。で、早速で悪いんだけど要件の方聞かせてくれないかな？」

「はい、私と一局勝負してくれませんか？」

「ほほお…」

こりやおったまげた。私に挑んできたのはそんなに驚かなかったけど、この子髪色から肌、服装。何から何までほぼ白一色で埋め尽くされてるんだもん、そりや驚くでしょ。まあ目だけは綺麗な藍色をしている。うわあ、まつげ長!!普通に人形とかで売つてそうな見た目してるよー裏山C)。

私達の会話が聞かれてたのか周りにはギャラリーが出来てる。これじゃあ断りにくいかまあ特段断る理由はないんだけどさ。私も暇してたし。しかもこの子面白いわね。稀に見る私たちと同じ特別な領域にいる子だねえ。この子周りとの実力が離れすぎていてつまらないと感じている目をしている。言っておくがここにいる人達は決して弱い訳では無い。どちらかと言うとまあまあ強い部類に入るほうだ。それを倒してここにいるということはこの子……。フフ、これは少し楽しくなりそうね

「全然いいわよ。喜んで相手をしましょう。」

「ありがとうございます。」

「でも、条件があるわ」

「条件……でしよるか」

「そう。私が勝った場合あなたを萌間高校麻雀部に入ってもらおうわ！」

「はい、喜んで」

……えっ？ちよ、えっ？……軽すぎじゃない？なんか……もつとこう……慌てるようなシーンでしょ？え？なんでこの子は微動だにせず笑顔で”はい、喜んで”って言えるのすごいなく私が逆に慌てるわ裏山C〜。私もこんな子になりたかったよ〜お母さん〜。

「そうじゃあ不公平なので私からも条件を加えます。」

「い、いいわよ」

「じゃあ、私が勝った時は……」

「か、勝った場合は？」

……

「私とデートしてくれませんか？」

「は？」

隠れた猛者

「で、でーとでしようか？」

「そうです」

私、この子、怖い！なににないでーとって意味がわからない！あれか!?俗にいる男女間で行われる街中でキャツキヤウフフの名称だね！完全に理解した!!がなんで私を選んでかは理解出来ん。いや待てよ？もしかしてこの子……………私の動揺している姿を見て楽しんでのか!!?よく見たらすんごい笑顔だし綾子と変わらんぐらい性悪だねこの子!!

やばいやばいどうしようどうしよう……………。とうとう動揺を隠し切れなくなってきた。既に手足震えてるもん。お願いだからギャラリーにバレないで……………。

……………ザワザワ……………ザワザワ……………

「望月さん。手震えてない？」

「嘘!?ホントだ！よく見ると足もじゃない!？」

「かなり動揺してるっばいぞ！」

「心理戦はあっちが上か!？」

バレた……。終わった……。元プロとして威厳のある振る舞いをしてきたつもりがこんな15歳の真っ白かわいい女の子に弄ばれるとか首括り問題……。しかも心理戦ってなんだよ。そんな高度なことしてないよオ。やばい羞恥心で今すぐこの場から逃げ出した。夢であつてくれないかな。ア、ハハハハ……ハア

「デートと言っても私の買い物に付いてきて欲しいのですが……」

「買い物ぐらいなら連れてってあげるよ。あ、もちろん受けて立ちますよ。」

そういうことでしたら早く言つてくださればいいのにい意地悪で

すねえ。

まあ、私これでもプロなんで売られた勝負は全部買いますよ。15歳の女の子がなんぼのもんじゃい！こちとらこの道長いもんでそんなじよそこらの女の子に白星上げてくれるほど私は甘くないよ。この勝負私以外全員ハコにする勢いでやってやるわ。

「じゃあ、早速やりたいんだけど面子が足りないね。誰か打ってくれる人います?」

「ここはわしが入ろう。さっきのリベンジや」

「私も…入る…:」

お?あまり私と打ちたいと思う人いないと思ってたけど思った以上に早く出てきたぞよ?1人は黒髪ショートは無表情女の子ともう一人はさつき私にコテンパンにやられたおっちゃんじゃん。こう、諦めずに戦ってくれる人この世界ほんと多いなあ嬉しい。

「メンツも揃ったことなので、じゃあ早速始めましょう?望月美波元プロ?」

「言ってくれるね?ナナミン。私少しカチンって来たよ」

こんな見えつ見えな挑発に乗る気にはならなかったが、だかまああえて乗っておこう。相手に会話の主導権を与え、相手の土俵に立った上でハコにする。トラウマになりかねないから力は抑えた上で全力で叩く。そうでもしないとナナミンに本当の意味で勝てたとは言えない。

「早速席と親を決めましょう?」

・
・
・

席

東家：おっちゃん（親）

南家：無表情女の子

西家：望月 美波

北家：桜羽 七海

東一局 0本場 ドラ：〔⑥〕

試合は東風戦。25000点持ちの30000点返し。ウマとオカはなし。基本はみんながやってる東風戦1回勝負。それで配牌
……

美波手牌

〔一二四七②③⑤78南西白中〕

最初でこれは偉い。まず最初は様子見したいからこういうのでいい。この子が本当にこちら側の人間か、この目と腕ではつきり見極めてあげる。

おっちゃん

打：〔北〕

無表情の女の子

打：〔東〕

この2人は定石道理。字牌整理しつつ有効牌を引き寄せる。1番ベターでイージーミスもしにくい。ただ安全牌の確保が難しくなるが……見る限りこの2人はかなり打つてるところから変な振込は大丈夫だろう。

引：〔⑥〕

打：〔？〕 ？は最初の牌で索子の3は無い為

さあ問題はここだ。さてどう出てくるか桜羽七海。この最初の一打で貴方の存在を見極めてあげる

「ふふ、そんな怖い目で見ないでください。立直です。」

打：〔横⑥〕

「ダ、ダブル立直。しかもドラ切りかよ……」
「……」

ほほお、さすがにやるねえ……でも、それだけ。この世界の麻雀はよく分からないけどオーラ？みたいなのが存在する。それは実力が大きければ大きいほど増し、特に対局始めの第1打で色濃く出る。今回私の目で見えた限りはせいぜい今の実力はアマ止まり。プロに匹敵するほどの実力は………持ってない。

おっちゃん

打：〔東〕

無表情の女の子

打：〔白〕

美波

引：〔7〕

まあ、大体だけどこのこの実力も分かったし今は普通に打ちますか。とりあえず安牌の白かドラから………

七海

〔裏裏裏裏裏裏裏裏裏裏〕 ゴゴゴ

うん、ふつーにやべえ手牌してるなあ。ここでこの子の番になった

ら一発ツモの四暗刻がある。直感だけど。ふむ、本来なら他家が鳴けそうな牌をチョイスするところだけど、本当に四暗刻なのか気になるなあ……。振り込んでみたい!! まあ、挑戦者として現れたわけだから全力でいきますよ。多分ね。

打：〔南〕

「ポン……」

〔南南横南〕

打：〔③〕

おお、私の意図を汲み取ってくれた嬉しい。このまま七海のツモ番を減らして行って、最終的には無表情の女の子が上がれば上々かな。とりあえず安牌を確保しつつ女の子のサポートに回ろう。それでとりあえず何巡かはツモ回避できるはず

打：〔西〕

「ポン……」

打：〔①〕

〔③、①〕と続いているあたりこつちもかなり早そう。5巡もしない内上がりそうな予感。うーん、あんまここでは使いたくなかったけどあれ使っちゃいますか。ここで他家にあがられると後々の局で響きそうだから無表情の女の子と七海に最初の流れを渡さないようにしないと。作戦変更、何としてもここで上がります。

・
・
・

……

「あれから誰も上がる気配がしないぞ。」

「最初の勢いが完全になくなったな。」

「このまま流局するパターンかな。」

あれから十数巡が経って何の音沙汰も無し。ただツモって捨てるだけの単純作業の繰り返し。皆さんお気づきでしょうけどももちろんこれが私の能力のひとつ”封殺”です。

この能力の持続時間は相手によって異なるけどこれが発動したら効果が切れるまで有効牌引きがとてつもなく悪くなるというプロさえ涙を流す初見殺し。ただ弱点として私も食らうのと実力が私と同じかそれ以上の人には通用しないということ。逆に言うとその二点をクリア出来たら相手に麻雀をさせないから”封殺”と理沙ちゃんがつけてくれた。理沙ちゃんありがとう。

「流局」

おっちゃん「不聴」

女の子「聴牌」

美波「不聴」

七海「聴牌」

「さすが、望月美波元プロ。次元が違いますね」

「褒めてくれてありがとうね。でも、君も人の事言えないと思うけどね」

……ザワザワ……ザワザワ……

七海（五五九九九一一一発発発中）

やっぱり、四暗刻単騎待ち。しかも私の余り牌を的確に刺す中単騎待ち。15歳の女の子がここまでやれるなんて思いもしなかった。この子。確実に萌間高校麻雀部に欲しい……それと……………

おっちゃん	23500
無表情女の子	26500
望月 美波	23500
桜羽 七海	26500

それから

東2局	1本場	ドラ	{白}
東家	無表情の女の子		
南家	望月美波		
西家	桜羽七海		
北家	おっちゃん		

七海「ツモ。立直、自摸、平和、断么九、一盃口」

{②③④3444556677} {^{ツモ}2}

「2100、4100」

おっちゃん	21400
無表情女の子	22400
望月 美波	21400
桜羽 七海	34800

東3局	0本場	ドラ	{①}
東家	望月美波		

南家：桜羽七海
西家：おっちゃん
北家：無表情の女の子

美波「ツモ。立直、一発、自摸、七対子、ドラドラ」

〔一一四四七七①8899北北〕〔①^{ツモ}〕

「6000オール」

おっちゃん 15400

無表情女の子 16400

望月 美波 39400

桜羽 七海 28800

東3局 1本場 ドラ〔6〕

東家：望月美波

南家：桜羽七海

西家：おっちゃん

北家：無表情の女の子

おっちゃん「おっしや!!ツモや。立直、一発、自摸」

〔①②②③③11789999〕〔④^{ツモ}〕

「1100、2100!!」

『いぞー!おっちゃん!!その調子だ!!』

「おう、任せておきな!」

おっちゃん 19700

無表情女の子 15300

望月 美波 37300
 桜羽 七海 27700

東4局 0本場 オーラス ドラ〔発〕
 東家：桜羽七海
 南家：おっちゃん
 西家：無表情の女の子
 北家：望月美波

七海「ロン。ダブ東」

〔五六七七八九④④④北東東東〕〔北^{ロン}〕

「1300オール!!」

おっちゃん 18400
 無表情女の子 14000
 望月 美波 36000
 桜羽 七海 31600

東4局 1本場 オーラス ドラ〔東〕
 東家：桜羽七海
 南家：おっちゃん
 西家：無表情の女の子
 北家：望月美波

七海「ツモ。タンのみ」

〔三四五六七七〕〔横⑥⑦⑧〕〔横657〕〔^{ツモ}二二〕

「600オール!!」

おっちゃん 17800
無表情女の子 13400
望月 美波 35400
桜羽 七海 33400

東4局 2本場 オーラス ドラ〔9〕

東家：桜羽七海

南家：おっちゃん

西家：無表情の女の子

北家：望月美波

(さすがに封殺はそんなに長続きしませんか。しかも上がる度にどんどん速さが増していく。これはこれは厄介な能力ですなあ。)

『すげえあの嬢ちゃん。僅か6巡以内に手役作り安手で上がって望月プロ相手に善戦してる。しかも次安手でも放銃させれば望月プロにまくることが出来る!!』

『でも、望月プロもかなりやばい。限られた手牌と相手の捨牌から安全牌を必ず切ってる。どうやったらあんな読みが出来んだ!!?』

(次は、私は役牌でも断么九でも、とにかく放銃させれば逆転。出来なくても次で決めることが出来る……しかもこの手牌)

七海〔二一一二三四五〕東東東中中〔中^{ツモ}〕

(一)を切れば、ダブ東に、中、混一色で跳満確定。しかもツモアガリすれば倍満まで伸びる。これで私は憧れのあの人に……)

無表情の女の子「……………」ゴゴゴゴッ

(こころは必ず上がれるようにダメで……………)

無表情の女の子「ロン。清一、平和、ドラドラ」

{2334556677899} {1_{ロン}}

「16000は16600」

「この子いつの間に聴牌して!!??」

「へえ……±0か……」

『今まではぼ放銃してこなかったあのお嬢ちゃんが、放銃!?!』

『しかも、放銃させたのは望月プロじゃなくて、今まで1度も上がってなかった黒髪ショートの子だ』

『一体どうなってるんだ!?!』

— 終局 —

おっちゃん 17800

無表情女の子 30000

望月 美波 35400

桜羽 七海 16800

おっちゃん — 12

無表情女の子 ±0

望月 美波 +25

桜羽 七海 — 13